

# 「諏訪之瀬島小・中学校の八月踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

十島村立諏訪之瀬島小・中学校

## 2 学年・人数

小学生 1年 3人    2年 1人    3年 2人    4年 3人  
          5年 2人    6年 2人  
中学生 1年 3人    2年 4人    3年 2人    計22人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和5年7月19日(水) 体育館

体育館で講師を招き、由来や踊りについて教えていただき、練習を行った。

### (2) 発表の日時・場所

令和5年9月29日(金)

今年度は十五夜と祈願祭で、島民と共に公民館で踊った。

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### (1) 名称

八月踊り（はちがつおどり）

### (2) 由来

この諏訪之瀬島では奄美大北部の笠利町の伝統的な文化や生活習慣を受け継いでいる。その中で八月踊りは、奄美大島全域で伝染病が広がり、それに加えて天災や地震が起こり、その被害は目も当てられない程であったため、沖縄の王に相談したところ祭りにより祟りを解くということから八月踊りが始まったとされている。8月節句は、考祖祭といって、新穀を神前に供え、先祖を祭り、五穀豊穰を祈るのである。考祖祭は、新節（あらせつ）とシバサシとドンガに分け、これを三八月（みはちがつ）という。新節は親節で8月最初の丙（ひのえ）の日に行く。新米で作った「キミ」と「カシキ」を備えて火の神を祭り、豊年を祝う。丙の前日すなわち乙（きりと）の晩から部落隅々まで一軒も残すところなく夜を徹し2日3日踊り歩く。これをヤサガシという。現在では継続されていない。シバサシは新節から中7日おいて乙にツカリ丙に祭る。畑や屋敷の隅に柴（すすき）を立てて悪神を払う。

### (3) 構成

自治会の行事の1つで公民館に集まり、囃子の方（男女3人くらい）、太鼓（女性のみ）、踊り手（その他全員）が1つの円を作り、囃子の方の歌に合わせて太鼓がなり、踊り始める。囃子の方の男女がそれぞれ掛け合いし負けないように競い合う。その競い合いに乗じてテンポがアップすると踊りもテンポアップして踊り方のリズムに合わせた踊りが要求される。この囃子の勝負が決したら踊りが終わる。この勝負を2～3回する。つまり、踊りを2～3回くらい踊ると休憩をしてまた踊りはじめる。これを1時間30分くらい行う。

## 5 保存会や地域との連携の具体

特に保存会はなく、個人でビデオを撮り、覚えている。地域の方は、子ども達にも伝承してほしいという思いを持ち、子どもたちの練習などに協力的である。基本的には、八月踊りの場で見よう見まねで踊りを覚えている。ただ囃子についてはしっかり伝承する必要性を感じる。本年度は、郷土教育の観点から、総合的な学習の時間や道徳の時間など活用し、地域の方をゲストティーチャーに活用したり、児童生徒自ら出向いてインタビューしたりするなど、由来や意義などを学んだ。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

諏訪之瀬島の伝統の灯を絶やさぬように、学校では毎年総合的な学習の時間において、島民の指導のもと児童生徒が八月踊りの練習に取り組んでいる。祈願祭では島民の参加者は神社で八月踊りを実施した。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

- ・ 初めて踊ったが、分かりやすく教えていただきすぐに覚えられた。
- ・ 難しい部分もあったが、みんなと踊ることができて楽しかった。

### 【教職員】

- ・ 実際に島民の方たちと踊ることで一体感を感じた。
- ・ 踊りの由来や踊り方を知ることができ、さらに興味が沸いた。

### 【地域の方から】

- ・ 今後も地域行事や伝統行事が続けていきたい。
- ・ これからも島の伝統を大切に守っていきたい。